

平成 30 年度 第 7 回帯広市総合計画策定審議会 議事概要

日 時 : 平成 30 年 10 月 9 日 (火) 18:30~20:50
場 所 : 帯広市役所 10 階第 5A 会議室
出席委員 : 金山会長、有塚委員、岩田委員、氏委員、川上委員、河野委員、
日月委員、林委員、村田委員、森委員、渡辺委員
(以上 11 名)
招 聘 者 : 学校法人北川学園帯広美術工芸学院 理事長 瀧川 秀敏 氏
説 明 員 : 池原政策推進部長、石井政策推進部企画調整監、西尾企画課長、
(事務局) 中西企画課主査、高橋企画課主査、千葉企画課主査、
廣澤企画課主任、土田企画課主任、西嶋企画課主任補、佐藤企画課主任補、
その他関係部署説明員
傍聴者等 : 報道関係者 1 名
配付資料 : 会議次第、委員名簿、意見集約結果、資料 1~4、
審議会の開催日程について、質問・意見シート

◆会議次第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 「学校教育」について
 - (2) 「高等学校教育・高等教育」について
 - (3) 「生涯学習・文化」について
 - (4) 「スポーツ」について
3. 閉会

◆議事概要

【事務局】 18 時 30 分時点で、委員 15 名中、8 名の委員が出席し、過半数に達しているため、帯広市総合計画策定審議会条例第 6 条第 2 項の規定により、会議が成立していることを報告する。

なお、本審議会においては、文化分野の議論を効果的に進めるため、文化部門を専門としている、学校法人北川学園帯広美術工芸学院 理事長の瀧川秀敏氏をお招きすることとしており、お見えになり次第ご紹介する。

ここからの議事進行は金山会長にお願いします。

【会 長】 始めに、前回委員の皆様からいただいた意見の集約結果について、事務局より説明をお願いします。

【事 務 局】 — 資料「前回意見集約結果」により説明 —

【会 長】 ただ今の説明について、質疑を行う。
意見、質問等あれば、発言いただきたい。

【質 疑：特になし】

【会 長】 別になければ、次に（１）「学校教育」を議題とする。事務局から説明願う。

— 資料 1 により事務局説明 —

【会 長】 ただ今の説明について、質疑を行う。意見・質問等あれば、発言いただきたい。

【委 員】 子どもの主体的な学びを引き出す一番の担い手は教員であり、教員が力を身につけることが大切である。そのためには、教員が主体的に研修に参加し、実践していくことが重要である。

一方で、教員は部活動の指導等に時間を割かれるため、自己研鑽の時間が限られているのも事実である。学校として研修の時間を確保、提供し、教員が能動的に研修に参加することが必要である。

【委 員】 子どもの数が多く、クラス替えがある小学校では、児童に能動的な行動が見られるようだが、クラス替えがない小学校では、受動的になる傾向が見られる。また、多くの児童と触れ合う機会がないため、人間関係の固定化が見られ、協調性が十分に育まれないなどの問題もある。このようなリスクを回避する方策を教育委員会はどのように考えているのか。

【事務局】 学校の小規模化による弊害としては、子どもたちで切磋琢磨する機会が少なくなることなどがあげられることから、教育委員会では小中一貫教育導入の検討を進めている。

義務教育9年間を見通した小中一貫教育を導入することで、小中学校の教員間の連携や、PTAや地域との連携により、子どもたちの社会性が育まれることなどが期待されることから、他地域でも取り組みが広がっている。教育委員会としても小中一貫教育の良い面を取り込み、小規模化の影響を緩和できるよう取り組んでいきたい。

【委員】 小中一貫教育には教科別に教師が変わることで、人間関係の多様化が図られクラスの状況にも変化が加わるなどの効果もあると聞いている。

【委員】 教員は適正に評価されているのか。良い授業をした教師にインセンティブが付与されることなどはあるのか。

【事務局】 評価制度が導入されており、年2回の勤勉手当や、1月の査定昇給などにあたっては、校長が教員の実績等を考慮して評価している。

【委員】 授業の公開を希望しない教師もいるが、それは自信の無さの表れだと思っている。自信のある教師の指導は、子どもたちにも良い影響を与える。様々な教師がいるが、どのような教師がいても組織全体でフォローし合い総合力で対応することが必要だと思う。

いじめにあう・不登校になる子どもたちの多くに共通しているのが強い不安感であるが、家庭訪問をしても不安感の解消につながらない子どもたちもいる。個別での対応が必要だと思うが、教育委員会ではどのように取り組んでいるのか。

【事務局】 学校以外の子どもの居場所でもあり、思いを受け止める場所として、「適応指導教室ひろびろ」など、幅広く子どもたちを受け入れる場所づくり、環境づくりに取り組んでいる。

また、心の教育相談員・家庭訪問相談員などのカウンセラーを配置し、子どもの声に耳を傾けられる体制を作っている。

【会 長】 教員だけが不登校等になる子どもの受け皿となるのは難しく、子どもの状況に合わせた、安心できる場所を学校・家庭・地域で作っていくことが大切。

【委 員】 町村の学校ではスクールバスを有しており、校外での体験活動等に参加しやすい環境にあるが、帯広市の学校はバスが無いため、保護者に応分の負担を求め、バスを手配すると聞いた。民間バス事業者と連携し、バスの借上げ料を低廉にしてもらうなどの工夫をして、市内の子どもたちも社会教育施設などで体験活動できる機会を確保できるとよい。

【事 務 局】 スクールバスは農村地域の一部の学校にしかなく、市街地校ではバスを所有することが難しいことから、バス会社に委託し、校外活動のための児童生徒の輸送も行っているが、現実的には全てに対応することは困難である。

【委 員】 教育の現場では教員と子どもの信頼関係づくりは大切なこと。子どもの信頼を裏切らないように対応をお願いしたい。

【会 長】 教師の指導力については、教師自身の指導力の向上に向けた意識が非常に重要で、意欲を引き出すインセンティブ等も必要である。

また、教師の力を全体的に底上げするための仕組みづくりも大切である。

【会 長】 他になければ、次に（２）「高等学校教育・高等教育」を議題とする。事務局から説明願う。

【事 務 局】 説明の前に、学校法人北川学園帯広美術工芸学院 理事長の瀧川秀敏氏がお見えになったので、ご紹介させていただく。

— 資料 2 により事務局説明 —

【会 長】 ただ今の説明について、質疑を行う。意見・質問等あれば、発言い

ただきたい。

【委員】 高等教育について、どういう人材育成を目指しているか。

【事務局】 平成 22 年までは、私立大学の誘致に向け取り組んできたが、時代が変化している中で方針転換し、この地域の発展にどのような人が必要か、そのために必要な教育の機能は何か、改めて根本から議論し、帯広畜産大学をはじめとした高等教育機関の整備拡充につなげるべく取り組んできた。

資料 2 の 24 ページにあるとおり、今後は、地域の強みを生かして、新しい価値を見出していけるリーダーをつくっていききたい。相手のある話であるため、時間を要してしまうが、求められる人材像・スキルを念頭に置き、できることから着手していく考えである。具体については、畜大と連携していく中で、今後の可能性について検討していく。

【会長】 全国で地域に大学設置の動きはあったが、近年の少子化等の問題で、新規誘致を断念する傾向があった。こうした中、畜大としても地域にある大学として、どういう貢献ができるのかという視点で検討を進めている。

【委員】 南商業高校の商業科目の中で、資格取得できる科目はどの程度あるのか。

【事務局】 情報処理などは資格取得を目指している。

【委員】 将来、現在存在している仕事の半数が無くなるといわれているが、無くならない仕事も当然ある。

資格取得にあたっては、今後、無くならない仕事について重点化して教育する必要があるのではないか。

【事務局】 学校経営の部分であり、校長の権限の範疇になるが、まずは、基礎的な能力を有する人材を育成することが重要であると考えている。

【委員】 即戦力としての人材を育むのであれば、今の時代に即した教育を進め、学んだことをすぐに実践できるようにすることが必要だと考えている。

【事務局】 商業科として、経理事務のスキルを磨くという要素は重要だが、今後を見据えた教育を展開していくことも大切であると考えている。

【会長】 キャリア教育や情報セキュリティなど将来的に必要なものも取り組みの中に組み入れたほうがよいという意見ではないか。

【会長】 他になければ、次に（３）「生涯学習・文化」を議題とする。事務局から説明願う。

— 資料 3 により事務局説明 —

【会長】 ただ今の説明について、質疑を行う。意見・質問等あれば、発言いただきたい。

【委員】 図書館から遠い地域については、借りた書籍を近隣のコミセン等でも返却できると利便性が向上し、図書館の利用促進につながるのではないか。

【事務局】 返却にはシステム上の処理や近隣コミセン等に返却された書籍をどう回収するかなどの課題がある。現状は移動図書館バス ナウマン号の利用を進めていきたいと考えている。

【委員】 情報セキュリティなどのスキル向上に資する書籍が古い。最新のものを置く分野とそうでない分野を見定めてほしい。

また、帯広市は農業が基幹産業であるため、生涯学習講座で家庭菜園を勉強するなど農業を学べる講座があると良いのではないか。

文化では、演奏者・作者などと触れ合える機会があると、文化・芸術活動に興味をわくのではないか。

【委員】 市は道立の帯広美術館においてどのような催しを行っているのか。

【事務局】 毎年1回、本市や報道機関などで実行委員会を組織して催事を開催しており、今年度は12月～2月に松浦武四郎展を予定している。

また、今年の夏に開催した体験型の展覧会「魔法の美術館」では、市内小中学生へのチラシ配布など、周知に協力した。

【委員】 子どもの頃から良いものに触れることが重要だと思うので、費用の問題等もあるだろうが、良い企画展を続けてほしい。

【会長】 市民ニーズを踏まえた企画展などは開催しているのか。

【委員】 帯広美術館振興会があり、企業を含めた各会員から会費を徴収し運営している。今年の魔法の美術館の実施にあたっては、道からの支援に加え、振興会からもこれまでの積立の一部を拠出した。

限られた予算の中で、市民に見せたい絵画等を選んで展示している。美術館をバックアップする組織が無いと運営が成り立たないのが現状である。

【委員】 振興会ももっと公募するといいかもしれない。

【委員】 高齢者が芸術・文化に触れる機会が不足していると感じており、興味・関心を持ってもらうことが難しいと思っている。帯広市主催の芸術・文化などのものづくり講座が少なく、市民芸術祭の作品数も少ない。

また、市民ギャラリーが来年3月で設置から10年となる。帯広市は20年で賃借しており、あと10年すると展示する場所が無くなる恐れがあるので、継続して展示できる場の確保をお願いしたい。

帯広市と同程度の規模の自治体でも、市立の美術館を有しているところもあり、そこを拠点として芸術・文化を発信している例も多い。また、帯広市には現在、芸術分野の非常勤学芸員が1人のみであり、こうした人材を育成しながら、地域の美術史を調査して記録

を次代に残していった欲しい。

【委員】 高齢者の鑑賞ニーズが少ない理由は何か。

【委員】 鑑賞ニーズは多いが、自ら創作する方が少ないと思っている。

【事務局】 他の分野も含めて、担い手育成が課題であると考えているが、幼少期から社会人になるまでの連続性が課題であると思う。そこに着目して取り組みを進めていくことが大切だと思っている。

【委員】 国内で唯一、大卒でアップル社のデザイン室に配属になった帯広出身者もいる。そういう人材育成も大切だと思っている。

学校では児童・生徒数の減少により空き教室が出てくると思うが、地域の作家の作品収蔵庫に活用できないのか。

【事務局】 校舎の利活用は、学校の活動を第一義的とし、その範囲で市内小学校では、余裕教室を地域の作家の美術作品展示に活用している事例がある。また、店舗などの作品展示など民間での取り組みも考慮し行政の役割を踏まえながら、総合的な視点で取り組んでいきたい。

【会長】 文化と生涯学習分野とのつながりや、市と民間の役割の整理をしながら取り組みを進めることが必要。

【会長】 他になければ、次に（４）「スポーツ」を議題とする。事務局から説明願う。

— 資料４により事務局説明 —

【会長】 ただ今の説明について、質疑を行う。意見・質問等あれば、発言いただきたい。

【委員】 スポーツをまちづくりに活かすためには、スポーツが仕事にならないといけないと考えている。そのためには、健康や観光分野などの他

分野と連携し、ボランティアではなく、収益性を確保することが重要である。

スポーツに関わる人たちの多くは、収益を確保することに関心が低く、ボランティアで指導などを行っているのが現状だが、そのままでは先細ってしまう。市がやるべきことは、スポーツと他業種との連携を促していくことであると思う。

【委員】 健康に必要なのは、正しい運動習慣であるが、知らない高齢者が多いと思う。簡単に運動ができ、それによって様々な人との交流があると、さらに楽しいと思える。

目的に合わせた運動（アスリート育成、運動習慣定着）支援と、スポーツを支える応援者・理解者となれる高齢者を増やすことが大切ではないか。

【委員】 まさに年配のコミュニティを作ろうとしている。年配の方が増加していく社会構造にあわせたビジネスができればと考えている。

新しい総合体育館が完成するタイミングで、民間企業が総合体育館でビジネス展開できるようにして欲しい。

【事務局】 指定管理者によって、上手に利益をあげているところもあれば、収益があげにくい施設もある。指定管理者の指定のタイミングでよい案を提示した事業者を選定したい。

メディカルフィットネスとの考え方もあり、医療とスポーツの結びつきも必要になってくると考えている。

【委員】 メディカルフィットネスの施設を帯広で実施する計画もあり、実現の際には市にも協力をお願いしたい。全国的に例がないため、総合的な運動に対する医療と体のケアをする施設ができると、先進モデルにもなれる。

また、食べ物がおいしく、天気が良く、災害が少ないなどの理由でスポーツ合宿が増えており、それらの需要に応えることができれば良いと思う。

【会 長】 他になければ、最後に、(5)「その他」を議題とする。事務局から説明願う。

【事 務 局】 審議会の中でお話できなかった質問や疑問があれば、本日配付した「質問意見シート」に記入の上、事務局まで提出いただきたい。

【会 長】 以上をもって、本日の会議を終了する。

以上